

松本 啓子

川崎医療福祉大学医療福祉学部保健看護学科 講師

### 認知症高齢者の家族介護者のニーズ

本研究は、在宅認知症高齢者の家族介護者のニーズを測定するための尺度の開発を目的とした。調査対象は、まず中国地方4県に在住する家族介護者のうち、協力が得られた465名とし、欠損値を有さない237名のデータを用いた。調査項目の内部一貫性の吟味を行ったのち、内容的妥当性を探索的因子分析で、また構成概念妥当性を確証的因子分析で検討した。解析に貢献する内部一貫性の高い23項目を選定した結果、「情報ニーズ」「他者理解ニーズ」「家族ニーズ」「医療ニーズ」「屋外活動ニーズ」「経済ニーズ」の6因子が抽出された( $\alpha$ 信頼係数は、0.885)。結果、これら6因子が、より高次の「家族介護者のニーズ」因子に集約される二次因子モデルがデータに十分適合し、家族介護者のニーズ測定尺度として適確であることが示唆された。また、外的基準は、筒井ら(1999)の報告を用い、認知症高齢者の認知、身体機能、問題行動で検討した( $R^2 = 0.177$ )結果、統計学的に有意な因子間相関を示した。